

科目名	臨床工学特論Ⅱ ①			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年 後期
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 現在の医療現場では多くの医療職が関わるのが特徴である。臨床工学技士はこの「チーム医療」を担う医療職の一員として、患者の情報を共有するための医学的知識が必須である。また検査や治療により深く携わり診療の補助を担うためには疾患に対する理解が必須となる。							
<b>【実務者経験】</b>							
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 国家試験に関わる全ての範囲について取り扱う。 グループワークを基本とし、科目・問題によっては個人ワークを主体とし口頭試問を行う。							
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎医学系科目を自分の言葉で解説できるようになる</li> <li>・臨床医学系問題について説明できるようになる</li> <li>・臨床工学専門科目について説明できるようになる</li> </ul>							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	医学概論（基礎系）科目演習						
2	医学概論(解剖学、生理学) 科目演習						
3	循環器の基礎演習						
4	循環器病学演習						
5	呼吸器の基礎演習						
6	呼吸器病学演習						
7	泌尿器の基礎演習						
8	肝胆膵の基礎演習						
9	脳神経系演習						
10	内分泌学演習						
11	生体の炎症と免疫反応、アレルギー						
12	微生物の基礎と消毒・滅菌医学						
13	眼科、皮膚科系疾患の基礎演習						
14	各種病態と治療機器						
15	中間テストを行い医学系科目全体の習熟度の確認						
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床工学講座 臨床医学総論、篠原一彦ほか、医歯薬出版株式会社</li> <li>・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社</li> <li>・配布資料</li> </ul>							
<b>【準備学習・時間外学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義毎に十分な振り返りの時間を設けること</li> <li>・自ら国家試験の過去問題を何度も繰り返し挑戦すること</li> </ul>							
<b>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</b> 試験の結果を100点満点として成績を評価する 中間テストを50点、定期試験を50点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							